

# 愛知県渥美半島方言における ～モナイ表現について

太 田 有多子

## 1. はじめに

ここで取り上げる～モナイのナイはもちろん助動詞「ない」ではなく、性質・状態を表わす語（形容詞語幹や形容動詞語幹など）に付いてその意味を強調し、形容詞化する接尾語「ない」である。例えば、「滅相もない」「大層もない」など。

形容詞「ない」については、文法上の分類に様々な説があり、さらに「ない」型形容詞についても、古くより「なし」の意を「無し」の他に、「なし」の接続する語の意味から「甚し」（または「痛し」）をあてて説明がなされている語もあるが、曖昧な点もあり、この問題についての論文も多い。  
(注1)

近年では、西宮一民氏の「事柄の程度の否定（打消）の意味（テナモンジャナイ）なのである」や今井正氏の「否定に否定を重ねることによって一層否定を強める日本語語法」というように、すべて「無し」とする説もある。  
(注2)

共通語でも語源に、～（モ）ナイが接続することによって、「ない」に「無い」を当ててよいかどうか単純に判断できない場合があり、俚言ともなると、～（モ）ナイの接続する語幹の語源どころか意味の不明なものが多く、ますます「ない」との関係に悩むところである。とはいえ、愛知県でも三河地区の東三河方言には～（モ）ナイという表現が非常に多

(横30)

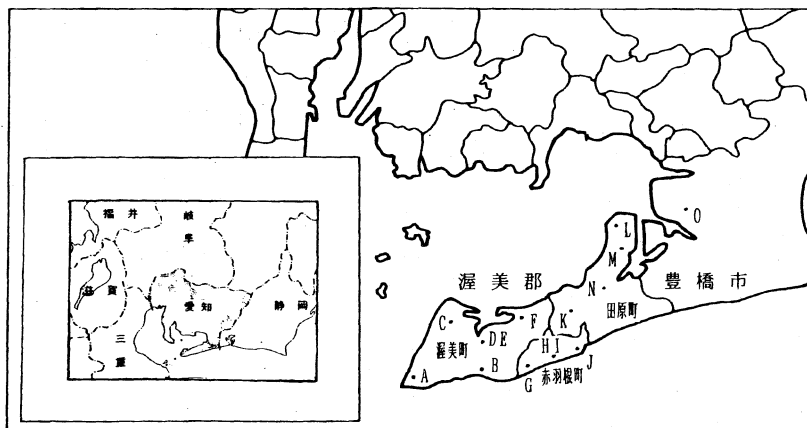
いが、この「ナイ」をどのように認識し、使っているのでしょうか。そこで、東三河地区に属する渥美半島の渥美郡渥美町、赤羽根町、田原町において形容詞化した～(モ)ナイ表現の意味と使われ方を調査し、考察する。尚、東三河地区の文化的中心地である豊橋市の資料も付加する。(図1)

## 2. 渥美半島における調査

調査地である渥美郡渥美町、赤羽根町、田原町及び豊橋市は、愛知県東部に位置し、特に太平洋に突き出た形の渥美半島の沿岸部では、明治初年までは漁業が盛んであったが、そののち豊橋市を中心として製糸業が盛んになると、当地も桑園も含めて製糸業の盛んな時期を経て、現在では温暖な気候を利用しての露地野菜の量産とビニールハウスなどの施設園芸に力を入れている。

当地では、1997年12月～1998年3月に、13地点15名の高年層を対象に～(モ)ナイ表現を中心とした調査項目を基に、面接による聞き取り調査を行った。

図1 調査地域



## 〈話者一覧〉

地 点	地点名	話者生年	性
渥美郡 渥美町 (アツミチョウ)	A 伊良湖(イラゴ)	大正8年生	男
	B 和地(ワジ)	大正15年生	男
	C 中山(ナカヤマ)	昭和10年生	男
	D 福江(フクエ) 1	昭和2年生	男
	E 福江 2	昭和2年生	女
	F 江比間(エヒマ)	昭和7年生	男
赤羽根町 (アカバネチョウ)	G 越戸(オット)	大正15年生	男
	H 赤羽根 1	大正12年生	男
	I 赤羽根 2	昭和4年生	男
	J 高松(タカマツ)	昭和4年生	男
田原町 (タハラチョウ)	K 芦村(アシムラ)	大正15年生	女
	L 波瀬(ハゼ)	大正2年生	女
	M 浦(ウラ)	大正15年生	男
	N 萱町(カヤマチ)	大正9年生	女
豊橋市 牟呂町 (ムロチョウ)	O 牟呂町	大正10年生	男

## 3. 渥美半島における～モナイ表現

愛知県でも東三河地区に多い～(モ)ナイ表現だが、その中でも、ランゴクナイ〈乱雑な〉、アテコトナイ〈とんでもない・つまらない〉のような～ナイ表現よりもランゴクモナイ、アテコトモナイのような～モナイ表現の方が種類も出現も多いため、ここでは～モナイ表現を取り上げることにする。

- ①ヤツ「テホシー」テモソ「ンナコト」ワア「カミタクモナ」イ〈やってほしいと言われてもそんなことはいやだ〉(渥美町A)

- ②ア「イツワ」ア「ワテンボーデ」ヤ「ルセモノ」ーヤ「ツ」ダナー  
くあいつはあわて者でどうしようもないやつだねえ> (牟呂町O)
- ③ソ「ンナ」ア「テコトモナ」イバ「カ」ゲタハ「ナシ」ア「ルカ」くそ  
んなとんでもない馬鹿げた話があるか> (牟呂町O)
- ④オ「マエ」ト「ンテキモノ」ーハ「ナシ」シ「ト」ンナくおまえ、と  
んでもない話をしているな> (牟呂町O)
- ⑤ア「バセモ」ナ「イコトセ」ルナ「ー」くとんでもないことするねえ>  
(渥美町A)
- ⑥テ「ンポモ」ネー「ハ」ナシ「モセ」ルくとんでもない話もする> (牟  
呂町O)
- ⑦ア「イツワ」テ「ンポモ」ナ「イコトヤ」ッ「タゾ」くあいつはとんでも  
ないことをしたよ> (渥美町C)

当地で使用されている～モナイ表現には、先に挙げた例文の①～⑦の  
ように①アカミタクモナイ<いやだ>や②ヤルセモナイ<どうしようも  
ない>、または「とんでもない・つまらない」の意の③アテコトモナイ、  
④トンテキモナイ、⑤アバセモナイ、⑥テンポモナイ・⑦テンポモナイ  
などがある。これらの中で、アカミタイ（垢見たい）やヤルセ（遣瀬）  
の「心を晴らすべき手段」、アテコト（当事）の「心当て、頼みにするこ  
と」のように語幹の語源や意味が判り、ナイに「無い」が当てられるも  
のから、トンテキ（頓的）ですでに「思慮のない軽はずみなこと」の意  
を持つことから単純に「無い」を当てられないもの、アバセやテンポ、  
テンポのように語源や意味の判らないものまで様々である。ただ、これ  
らは語幹部分の強調表現であろうが、当地では語幹部分のみでの使用は  
見られなかった。これは、～モナイ表現がいかに密接度の高いひとまと  
まりの形容詞として使われているかの現れではないだろうか。

それに対して、次に挙げる～モナイ表現には、その語幹部分のみ（以  
下、「非～モナイ語」とすることもある）の使用も見られる。

#### 4、渥美半島における～モナイ表現と非～モナイ語

本来、形容詞語幹や形容動詞語幹にナイが付くことによって、それが強調された意味を持つならば、語幹部分の強調である～モナイ表現が使用されている以上は語幹部分の非～モナイ語の使用もあってしかるべきかと思われるが、実際には非～モナイ語とその強調の～モナイ表現の双方が共に出現することは希である。そもそも、～モナイという強調表現自体の出現が少ないと言ってよい。それに対して、東三河方言では、～モナイ表現の種類や出現がかなり多い。これらすべて強調表現と考えるにはあまりにも不自然に思われ、その関係において語幹部分のみの語も再考を要する。ここでは、双方がともに出現しているものに限って、それぞれ対の形で列挙し、双方の意味と使われ方を検討する。(表1・2参照)

- ⑧ 1 ダ ダクサモ 「ナ」 イク 「レタナ」ー〈たくさんくれたねえ〉(赤羽根町J)
- ⑧ 2 ダ ダクサ 「ア」ル 「ナ」ー〈たくさんあるねえ〉(赤羽根町J)
- ⑨ 1 ダ ダクサンモ 「ナ」 イト 「レタゲ」 ナ〈たくさん取れたそうだよ〉(田原町M)
- ⑨ 2 ダ ダクサンモ 「ラッタ 〈たくさん貰った〉(渥美町B)
- ⑩ 1 コ 「ンナ」 タ 「クサ」ンモ 「ナ」 イク 「レテナ」ン 〈こんなにたくさんくれてね〉(渥美町A)
- ⑩ 2 ネ「ギオタ」 クサンモ 「ラッタ 〈葱をたくさん貰った〉(渥美町D)
- ⑪ 1 サ 「カナオ」 ガ 「ト」ーモ 「ナ」 イモ 「ラッタ 〈魚をたくさん貰った〉(赤羽根町I)

(横34)

- ⑪ 2 ガ「ト」ーサ「カナ」モ「ラッタくたくさん魚を貰った> (赤羽根町 I)
- ⑫ 1 ド「サマクモナ」イサ「ツマイモオ」イ「タダ」イテ くたくさん甘  
諸を頂いて> (赤羽根町 G)
- ⑫ 2 キョ「ーワサ「カナオ」ド「サマク」モ「ラッチャッテ く今日は魚  
をたくさん貰ってしまっ> (渥美町 B)
- ⑬ 1 ウ「チ」ワラ「ンゴクモナ」イジャ「ナ」イカ く家は乱雑ではない  
か> (赤羽根町 H)
- ⑬ 2 オ「マエンタラ」ーノオ「モテ」ワラ「ンゴクダナ」ー くおまえ達  
の庭は乱雑だね> (牟呂町 O)
- ⑭ 1 ゾ「ンザイモネ」ーシ「ゴトオ」シ「テ」ワイ「ケマセ」ンヨ くい  
いかげんな仕事をしてはいけませんよ> (田原町 M)
- ⑭ 2 ゾ「ンザ」イニシ「ゴトオ」シ「テ」ワイ「ケナ」イヨ くいいかげ  
んに仕事をしてはいけないよ> (田原町 M)
- ⑮ 1 ラ「ンゴ」クニシ「テア」ッテロ「クザッポモナ」イゾ く乱雑にし  
てあってだらしがないよ> (赤羽根町 G)
- ⑮ 2 ロ「クザッポデ」ソ「ロ」イモセ「ンデネ」ー くいいかげんで揃い  
もしないでねえ> (田原町 K)
- ⑯ 1 ワ「シ」ラントワ「ヤクモナ」イデ く私たちの所は乱雑だから> (田  
原町 K)
- ⑯ 2 ワ「ヤクナ」コ「ゾ」ーダ「ナー く腕白な小僧だねえ> (渥美町 A)

- ⑰ 1 ド「ダイコトモナ」イコトシ「タ」ゼヨ<とんでもないことしたよ>  
(田原町M)
- ⑰ 2 ド「ダイコト」オ「モシロカ」ッタ「ノ」ン<非常に面白かったね>  
(田原町M)
- ⑱ 1 ド「ダイモナ」イハ「ナシ」ニナ「ラ」ンゾ<とんでもなく話にならないよ>(赤羽根町J)
- ⑱ 2 ド「ダイ」「オー」キナハ「ナシ」ダナ<とんでもなく大きな話だね>  
(赤羽根町G)
- ⑲ 1 ソ「ンナ」メツ「ポー」ガイモ「ナ」イハ「ナシ」ガ「ア」ルカ  
<そんなとんでもない話があるか>(牟呂町O)
- ⑲ 2 メツ「ポー」ガイツ「ヨ」イ<非常に強い>(田原町K)
- ⑳ 1 メツ「ポー」モ「ナ」イコ「ト」ガ「オ」キタ<とんでもないことが起きた>(赤羽根町J)
- ⑳ 2 メツ「ポー」ツ「ヨ」イ<非常に強い>(田原町K)
- ㉑ 1 タ「イソモ」「ネー」コトシ「ヤ」ガッタゼヨ<つまらないことをしたよ>(田原町M)
- ㉑ 2 タ「イソナコ」「ト」シ「タノ」ン<つまらないことしたね>(田原町M)
- ㉒ 1 ア「イツノ」ハ「ナシ」ワ「ク」タイモ「ネー」<あいつの話はつまらない>(牟呂町O)
- ㉒ 2 ア「イツノ」ハ「ナシ」ワ「ク」タイダ「ナ」<あいつの話はつまらないね>(牟呂町O)

ここで取り上げた～モナイ表現のうち⑧1ダダクサモナイ、⑨1ダダクサンモナイ、⑩1タクサンモナイ、⑪1ガトーモナイ類、⑫1ドサマクモナイの意は、「多い」である。また、⑬1ランゴクモナイ、⑭1ゾンザイモナイ、⑮1ロクザッポモナイ類の意は、「乱雑な」「だらしない」「いいかげんな」などである。(表1) これらは、東三河方言の特徴的表現として多く出現しているが、その対を成す語として⑧2ダダクサ、⑨2ダダクサン、⑩2タクサン、⑪2ガトー類、⑫2ドサマク、⑬2ランゴク、⑭2ゾンザイ、⑮2ロクザッポ類の出現も多い。そして、これらの意味はそれぞれ～モナイ表現と同じことである。(表2)

その他、出現こそ少ないものの、「減茶苦茶な」「乱雑な」の意の⑯1ワヤクモナイ(出現地点A・K・L・O)や「とんでもない」「非常に」の意の⑰1ドダイコトモナイ(地点G・K・M)、⑱1ドダイモナイ(地点A・J・K・M・O)、「意外な」の意の⑲メッポーガイモナイ(地点K・N・O)、⑳1メッポーモナイ(地点A・J・K・N・O)、「つまらない」の意の㉑1タイソモナイ(地点A・E・F・H・M・O)、㉒1ヤクタイモナイ(地点C・H・O)などが、やはり対となる語の⑯2ワヤク(地点A・C・H・O)、⑰2ドダイコト(地点G・M・O)、⑱2ドダイ(地点C・D・E・G・J・O)、⑲2メッポーガイ(地点K・N・O)、㉑2メッポー(地点B・F・J・K)、㉒2タイソ(一)(地点D・H・M・O)、㉒2ヤクタイ(地点H・O)とともにある。そして、やはりこれら～モナイ表現と非～モナイ語も双方の意味はほぼ同じである。

本来は語幹部分の非～モナイ語に対する強調として～モナイ表現が現れるのであろうが、以上⑧～㉒の例文にある～モナイ表現と非～モナイ語はそれぞれ双方同じ意味なのである。つまり、当地では一つの語とその強調表現という関係でなく、形こそ違え、双方とも同じ意味で使われている～モナイ表現と非～モナイ語なのである。

次に、表1・2をみると、当調査地域の中でも、豊橋市及び渥美郡田原町では～モナイ表現の出現は多く、特に渥美半島先端の渥美郡渥美町

に至っては～モナイ表現の出現は明らかに少ない。このような～モナイ表現の出現における地域差は何によって生じたのか。渥美半島先端地が東三河地区とはいえ、地形的に当地の文化的中心地である田原町やさらには豊橋市に至る陸路がかつては不便だったこともあり、そちらへの往き来よりも、航路を利用した西三河地方との交流の方が盛んだったという。西三河地区からの言語的影響が～モナイ表現の出現に地域差を生み出しているのであろうか。この地域差も念頭に置きつつ、さらに～モナイ表現と非～モナイ語の関係をみる。

まずは、一話者の中で同じ意味を持つ～モナイ表現と非～モナイ語はどのような使われ方をしているのであろうか。当地域での話者の～モナイ表現と非～モナイ語の使用意識をみると、

\* 渥美町 A : ドサマクモナイもドサマクも同じ意味である。

ランゴクモナイもランゴクナイ、ランゴカナイ、ランゴクも同じような意味で、特に区別はない。

\* 渥美町 C : ドサマクモナイは普通の使い方、略したドサマクの使用は少ない。

\* 渥美町 D : ランゴクモナイとわざわざ言わない。

\* 赤羽根町 G : ドダイコトモナイとドダイコトは同じ意味だが、ドダイコトモナイの方を多用。

\* 赤羽根町 H : ガトーモナイとガトーは同じ意味だが、ガトーモナイの方を多用。

ランゴクモナイ、ランゴクナイ、ランゴクは同じ意味だが、ランゴクモナイをもっとも多用。

\* 赤羽根町 I : ガトーよりもガトーモナイの方を多用。

\* 赤羽根町 J : ダダクサよりもダダクサモナイの方を多用。

\* 田原町 K : メッポーガイモナイも使うが、田舎の方はどうしても短い。簡単に言う。

\* 田原町 L : 話の流れによってドサマクで済む時とドサマクモナイま

で付ける時がある。

\* 田原町M : その場の雰囲気でランゴクモナイ、ランゴクナイ、ランゴクを使い、特に使い分けはない。

\* 牟呂町O : ~モナイは客観的表現として、モナイが付かない語は主観的、感情的表現として使うことが多い。

ワヤクモナイよりワヤクを多用。

タイソよりタイソモナイを多用。

ランゴクモナイの使用の方が多く、ランゴクナイ、ランゴクは少ない。

以上の地点では、~モナイ表現と非~モナイ語が意味的には同等であるとした上で、双方の使用頻度の差などを指摘している。それに加えて、非~モナイ語が~モナイ表現を略した語だという認識も伺える。つまり、当地域ではもともと非~モナイ語があった上で、強調としての~モナイ表現が出現したのではなく、逆に~モナイ表現があり、それを非~モナイ語に略した形で使っているようだ。

さらに、~モナイ表現に対して非~モナイ語が略された表現というならば、これらは待遇差による違いではないだろうか。話者の内省をみてみると、  
(注5)

\* 渥美町B : 和地は半農半漁のおとなしい地で、普通は簡単にランゴカナイ・ランゴクナイと言うが、ランゴクモナイと丁寧に言う場合もある。

\* 渥美町C : ムショータラクモナイは丁寧。ランゴクモナイは丁寧。  
ここは漁師町だから気が短く、言い方も短い方が多い。

\* 田原町L : ダダクサン (ニ) モナイは丁寧な表現だが、漁村なのでダダクサンで切ることが多い。

\* 牟呂町O : 同等以下の者に対してはガトーと略して言うし、目上の者にはガトーモナイと言う。ナイを入れると丁寧な言い方になる。

以上の地点では、～モナイ表現を丁寧な表現とし、それに対して非～モナイ語が簡略な表現と認識している。～モナイ表現と非～モナイ語が両用されている割には、使い分けに対する認識は丁寧に言うか言わないかの差ぐらいで、後は「その場の雰囲気による」ことが多い。このような、使い分けの認識の少なさは、ある意味で全体的に～モナイ表現の使用頻度の多さによるもので、あまり待遇差を意識することなく、上位場面から下位場面まで使われているためであろう。また、非～モナイ語も、単に簡略化された表現であって、乱暴な表現という認識がないことが～モナイ表現との使用場面差をあまり明確にしないのであろう。

従って、当地域の地域差は渥美半島の先端地域では多くが漁師町であったことから、先に述べたような航路を利用して西三河地方の影響があったとしても、言葉の使い方も丁寧な表現よりも簡略な表現を多く使う社会的な環境が、豊橋市や田原町よりも～モナイ表現の使用頻度が少ないという地域差を生み出したのではないかと考える。

## 5、まとめ

当地域において、～モナイ表現はその語幹部分となる語とともに、その使用は多い。元来、～モナイ表現とその語幹部分の関係は～モナイ表現が語幹部分（形容詞語幹・形容動詞語幹など）の強調であろうが、当地域では～モナイ表現も非～モナイ語も程度の差なく、同様の意味で使っている。そして、その関係はまず～モナイ表現があり、非～モナイ語はそれの簡略化された語という認識なのである。略されても意味が変わらないことにおいて、これもまた、当地の～モナイ表現がひとまとまりの語として、形容詞化している現れであろう。そして、それが社会的環境によって～モナイ表現と非～モナイ語の出現に地域差を作り出してはいるものの、当地域において～モナイ表現がもともとの形であることには変わらない。それを顕著に表しているものとして、タクサンモナイが

ある。これは共通語タクサンがある故に、その基となるべくタクサンモナイを当地域に多い～モナイ表現の影響を受けて作り出し、多用することとなったのではないだろうか。さらに、ダダクサンモナイは、ダダクサモナイとタクサンモナイの影響によるものとする。このように～モナイ表現には派生力があり、今後とも注目したい表現である。

当地域の～モナイ表現の特異な使われ方を見てきたが、話者が意識せず使う表現の使い分けを客観的にとらえることの難しさ、それが単純に地域差や待遇差では処理できない要素を持つ表現についてはなおさら、調査方法についてもさらに検討していく必要があると考える。

### 注

- 1：『日本国語大辞典』（小学館）より

な・い《接尾》（形容詞型活用）〔文〕な・し（形容詞ク活用型活用）性質・状態を表わす語（多く、形容詞語幹・形容動詞語幹など）に付いてその意味を強調し、形容詞化する。「苛（いら）なし」「うしろめたなし」「切（せつ）ない」「はしたない」など。また「大層もない」「滅相もない」など、「も」のはいった形でも用いられる。

- 2：『大言海』より

な・し（形）甚（痛<sup>イ</sup>タシノ略ナル、甚<sup>タ</sup>シニ通ズ）他語ニ接シテ、接尾語ノ如ク用キル語。

『広辞苑』第4版より

な・い《接尾》（形容詞型活用）〔文〕な・し（ク活用型活用）性質・状態を表す語に添えて、その意味を強め、形容詞をつくる。「甚だしい」の意。「うしろめたー・し」「苛（いら）ー・し」「切ー・い」「はしたー・い」「せわしー・い」

- 3：「「なし」を接辞とする形容詞について」佐藤鶴吉

「ナシ（甚）型形容詞ー否定性接尾語を有する形容詞の考察ー」（1995，9）

岩村恵美子

「「ない」型形容詞の語構造について」（1996，9） 晋栄和

- 4：「いわゆる「甚し」について」（1978，3） 西宮一民

「「ない」を伴う形容詞について」（1983，7） 今井正

- 5：～（モ）ナイ表現のナイの転化ネーについては、当地において漁村や男性に多用される語としての説明もなされたが、今回はナイとネーを区別することなく扱う。

〈参考文献〉

- 「[なし]を接辞とする形容詞について」 佐藤鶴吉  
『国語国文』（京都大学国文学会）第3巻第5号 1933. 5
- 「いわゆる「甚し」について」 西宮一民  
『論集日本文学・日本語1上代』（角川書店）1978. 3
- 「[ない]を伴う形容詞について」 今井正  
『宇部短期大学学術報告』第20号（宇部短期大学）1983. 7
- 「[ない]についての諸問題」 吉田優子  
『文教大学国文』第13号（文教大学国文学会）1984. 3
- 「[ない]について」 高崎みどり  
『国文学 言語と文芸』第95号（大塚国語国文学会）1984. 6
- 「ナシ（甚）型形容詞－否定性接尾語を有する形容詞の考察－」 岩村恵美子  
『語文』第64輯（大阪大学国語国文学会）1995. 9
- 「[ない]型形容詞の語構造について」 晋栄和  
『文芸研究』第142集（日本文芸研究会）1996. 9
- 『渥美町史－考古・民俗編－』 1991. 3
- 『赤羽根町史』 1968. 11
- 『田原町史 下巻』 1978. 5
- 『牟呂の方言』 杉浦久雄 1988. 12
- 『続牟呂の方言』 杉浦久雄 1990. 11
- 『私の豊川方言集』 大光明眞雄 1992. 4

最後に、話者の方々のご協力と椋山女学園大学の平成9年度研究費（B）補助に感謝申し上げます。

表1 渥美半島方言における～モナイ表現と非～モナイ語の出現表（1）

出現形＼地点	渥美郡 渥美町 A	B	C	D	E	F	赤羽根町 G	H	I	J	田原町 K	L	M	N	豊橋市 牟呂町 O
⑧1 ダダクサモナイ	――	――	――	――	――	――	ダダクサモ「ナ」イ	――	――	ダダクサモ「ナ」イ	ダ「ダクサモナ」イ	――	ダダクサモ「ナ」イ	ダダクサモ「ナ」イ	ダダクサモ「ナ」イ ダ「ダ」クサモ「ナ」イ
⑧2 ダダクサ	――	――	――	ダ「ダクサ	ダ「ダクサ	――	ダダクサ	――	――	ダダクサ	ダ「ダ」クサ	――	ダダクサ	ダダクサ	ダダクサ
⑨1 ダダクサンモナイ	ダダクサモンモ「ナ」イ	――	――	――	――	――	ダダクサンモ「ナ」イ	ダダクサンモ「ナ」イ	――	ダダクサンモ「ナ」イ	ダダクサンモ「ナ」イ	ダダクサンモ「ナ」イ	ダダクサンモ「ナ」イ	ダ「ダ」クサンモ「ナ」イ	ダダクサンモ「ナ」イ
⑨2 ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン ダ「ダ」クサン ダ「ダクサ」ン ダ「ダクサン	ダ「ダクサ」ン	――	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン	ダダクサン
⑩1 タクサンモナイ	タ「クサ」ンモ「ナ」イ	――	――	――	――	――	タ「クサ」ンモ「ナ」イ タ「クサンモナ」イ	――	――	タ「クサ」ンモ「ナ」イ	タ「ークサ」ンモ「ナ」イ	△タ「クサンモナ」イ	タ「クサンモナ」イ	△タ「クサンモナ」イ	タ「クサ」ンモ「ナ」イ
⑩2 タクサン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン	タ「クサ」ン
⑪1 ガトーモナイ類 ガトーモナイ ガートモナイ ガトモナイ ガットモナイ	ガ「トー」モ「ナ」イ	――	ガ「ート」モ「ナ」イ	ガ「ト」ーモ「ナ」イ	ガ「トー」モ「ナ」イ ガ「ト」モ「ナ」イ	――	ガ「ト」ートモ「ナ」イ ガ「トー」モナ「イ	ガ「ト」ーモ「ナ」イ	ガ「ト」ーモ「ナ」イ	ガ「ト」ーモ「ナ」イ	ガ「トー」モ「ナ」イ	ガ「トー」モ「ナ」イ ガ「トー」モナ「イ	ガ「トー」モ「ナ」イ ガ「トー」モナ「イ ガッ「ト」モナ「イ	ガ「トー」モ「ナ」イ	ガ「トー」モ「ナ」イ ガ「トー」モナ「イ
⑪2 ガトー類 ガトー ガート	――	――	ガ「ート	――	△ガ「トー	ガ「トー	ガ「ト」ー	ガ「トー	ガ「ト」ー	ガ「ト」ー	ガ「トー	ガ「トー	ガ「トー	ガ「トー	ガ「トー
⑫1 ドサマクモナイ	ド「サマクモナ」イ	――	ド「サマクモナ」イ	――	――	――	ド「サマクモナ」イ	――	――	ド「サマクモナ」イ	ド「サマクモナ」イ	ド「サマクモナ」イ	ド「サマクモナ」イ	――	ド「サマクモナ」イ
⑫2 ドサマク	ド「サマク	――	ド「サマク	ド「サマク	ド「サマク	ド「サマク	ド「サマク	――	ド「サマク	ド「サマク	ド「サマク	ド「サマク	ド「サマク	△ド「サマク	ド「サマク

△話者本人は使わないが聞くことはある。

表2 渥美半島方言における～モナイ表現と非～モナイ語の出現表（2）

出現形 \ 地点	渥美郡 渥美町 A	B	C	D	E	F	赤羽根町 G	H	I	J	田原町 K	L	M	N	豊橋市 牟呂町 O
⑬1 ランゴクモナイ	ラ「ンゴクモナ」イ	ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴクモナ」イ ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴク」モ「ナ」イ	ラ「ンゴクモナ」イ	——	ラ「ンゴクモナ」イ	ラ「ンゴクモナ」イ ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ	ラ「ンゴクモナ」イ ラ「ンゴ」クモ「ナ」イ ラ「ンゴク」モ「ナ」イ	ラ「ンゴクモナ」イ	ラ「ンゴクモナ」イ
⑬2 ランゴク	——	——	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク ラ「ンゴ」ク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク ラ「ンゴ」ク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク ラ「ンゴ」ク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク	ラ「ンゴク ラ「ンゴ」ク ラ「ンゴク
⑭1 ゾンザイモナイ	——	ゾ「ンザ」イモ「ナ」イ	——	——	——	——	ゾ「ンザ」イモ「ナ」イ	——	——	ゾ「ンザ」イモ「ナ」イ	ゾ「ンザイモナ」イ	ゾ「ンザイモナ」イ	ゾ「ンザイモナ」イ	ゾ「ンザイモナ」イ	ゾ「ンザ」イモ「ナ」イ
⑭2 ゾンザイ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ	ゾ「ンザ」イ
⑮1 ロクザッポモナイ類 ロクザッポモナイ ロクザッパモナイ	——	——	——	——	——	——	ロ「クザッポモナ」イ	——	ロ「クザッポモナ」イ	ロ「クザッポモナ」イ	ロ「クザッポモナ」イ	ロ「クザッポモナ」イ	ロ「クザッポモナ」イ	——	ロ「クザッポモナ」イ ロ「クザッパモナ」イ
⑮2 ロクザッポ類 ロクザッポ ロクザッパ	——	——	——	——	——	ロ「クザッパ	——	——	——	——	ロ「クザッポ			ロ「クザッポ	ロ「クザッパ